

第1回 駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日 時 平成28年3月7日(月) 14:00～16:00
場 所 国土交通省中部地方整備局静岡河川事務所 2階会議室
出席者 東京大学大学院 佐藤教授
名古屋大学大学院 水谷教授
静岡大学 原田准教授
国土技術政策総合研究所 諏訪海岸研究室長
静岡県交通基盤部 杉保河川砂防局長
中部地方整備局河川部 平山河川調査官
中部地方整備局静岡河川事務所 犬飼事務所長

<議事>

○はじめに

- ・駿河海岸は、急勾配な地形特性等により高波浪が来襲するため、海岸保全にあたっては高度な技術力が必要である。
- ・現在、直轄海岸事業により高潮・侵食対策を推進しているが、南海トラフ巨大地震の危険性を踏まえた津波対策（粘り強い構造の海岸堤防整備）を事業計画に追加したところである。

○委員会規約

- ・駿河海岸保全検討委員会規約が承認された。
- ・委員からの推薦により東京大学大学院 佐藤教授を委員長とすることが了承された。

○委員会の進め方

- ・当面は年2～3回開催とし、粘り強い構造の海岸堤防整備を議題の主とする。

○粘り強い構造の海岸堤防整備

- ・模型実験では、海岸堤防の背後の盛土について、L1を上回る規模の津波により、盛土を越流した場合に、盛土の変状とそれに伴う海岸堤防への影響を確認する。
- ・模型実験は、駿河海岸で想定される最大越流時間で終了するのではなく、さらに越流時間を延長し、その後の盛土の変状や海岸堤防への影響を確認できるとよい。
- ・東日本大震災時の被災状況をみると、堤防の弱部から崩壊が生じている事例もあることから、沿岸方向の一部に弱部を設けた盛土について評価することも考えてみたらどうか。
- ・盛土裏法勾配を急にすると、越流水の流速が大きくなり、変状が大きくなることから、実際に施工する盛土の勾配を踏まえて実験を行う必要がある。
- ・盛土の飽和条件で、洗掘・盛土の流出等の状況が大きく異なることから、飽和条件を変えたケースの実験を行うとよい。
- ・実験ケースを検討する上で、越流による盛土の変状については、東日本大震災での河川堤防（土堤）の被災状況（新北上川、鮫川など）を参考とするのがよい。
- ・盛土表面の植生については、安全側にはたらくことから、模型実験では、植生を考慮しない。
- ・海岸堤防の構造を決定するために模型実験及び数値シミュレーションを実施することとする。